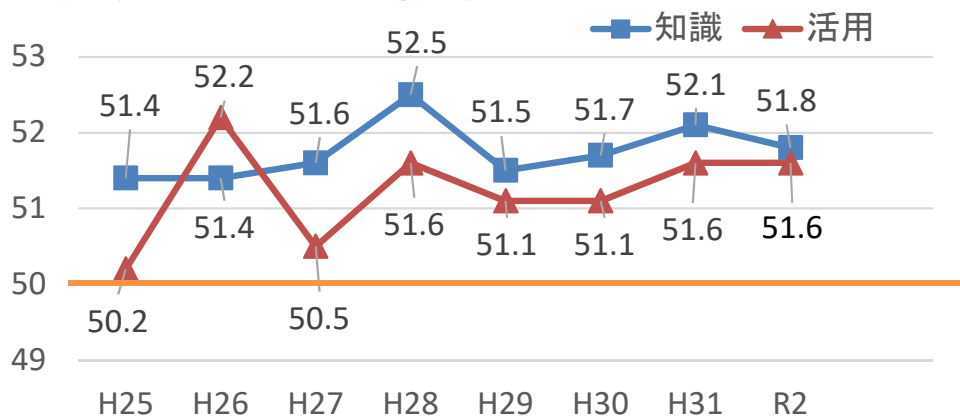


結果のポイント

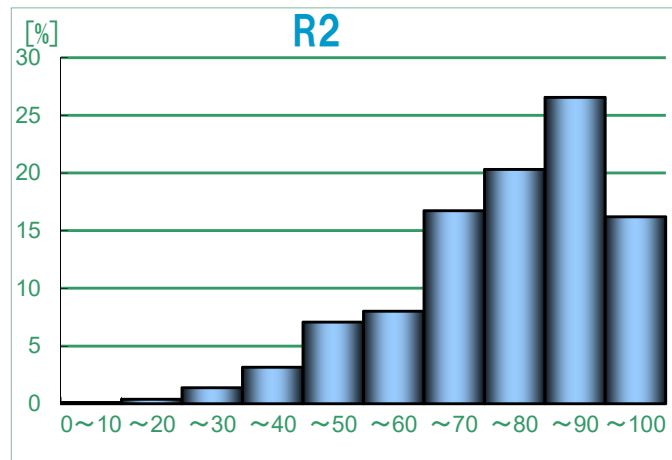
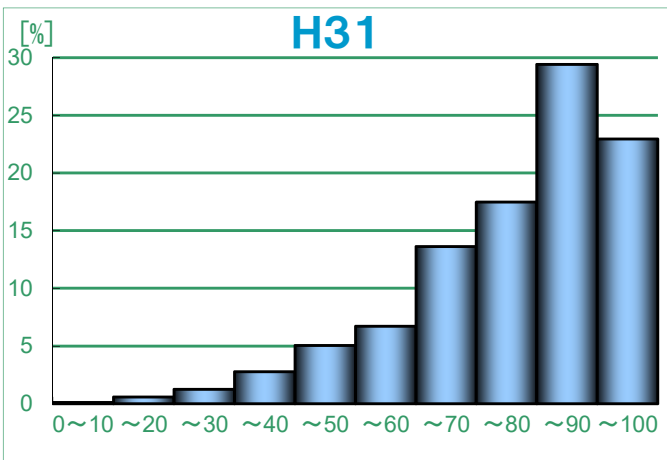
1 偏差値の経年変化



○平均正答率は、知識(75.6)、活用(63.7)ともに目標値(知識・73.1 活用・60.0)を上回った。

▲知識については、昨年度より0.3P下回る結果となっている。

4 正答率度数分布の変化



2 領域別の結果

領域	県正答率	全国正答率	目標値
話すこと・聞くこと	64.4	65.0	68.0
書くこと	77.7	61.1	60.0
読むこと	70.8	71.2	70.8
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.0	72.0	73.0

○「書くこと」「伝国」は、目標値を上回っており、「書くこと」については高い水準を維持している。

▲「話すこと・聞くこと」は目標値を3.6P下回っており、全国正答率よりも0.6P下回っている。

3 観点別の結果

観点	県正答率	全国正答率	目標値
国語への関心・意欲・態度	69.9	64.1	66.3
話す・聞く能力	64.4	65.0	68.0
書く能力	72.6	59.1	58.5
読む能力	68.5	68.8	68.9
言語についての知識・理解・技能	74.9	71.3	71.9

○「関心・意欲・態度」「書く能力」「知識・理解・技能」は目標値・全国値を上回る。

▲「話す・聞く能力」「読む能力」は目標値・全国値ともに下回った。

○低学力層の児童の割合は低い。

▲前年に比べ、9割以上の正答率の人数は減少している。

■ つまづきが見られた問題

- 大問6(1) 【参考値】正答率49.3%・無解答率1.4%
 (2) 【参考値】正答率59.1%・無解答率8.5%

「ちらしをもとに話し合う問題」

- (1) 互いの考えの共通点を考えて話し合うことができるかどうかをみる。
 (2) 相手に応じて話すことができるかどうかをみる。

▲互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理することに課題がある。

▲目的に応じて内容を明確にして話すことに課題がある。

準正答22.9%のうち

- ・「丁寧な言葉の使用ができていない」は6.9%
- ・「内容が不十分」は16.0%

◆ 指導のポイント

○5・6年生〔A話すこと・聞くこと〕のイ及びエの指導事項について指導の充実を図ること。

- 具体的な「話す場」を意識した学習を仕組む。
- 「話の内容が明確になるように」するためには、事実と感想、意見を区別したり、詳しい説明を加えたりすることが必要であることを理解させる。
- 話し手の考えと自分の考えとを比較して共通点や相違点を整理する場面を設定するとともに、〔情報の整理〕との関連を図り指導の効果を高める。

★ 指導の具体例

単元名 「地域のためにできること、話し合おう」

〈学習活動〉自分の意見と比べながら、友達の意見を聞き、条件に従って自分たちにできることを考える。

○話し合いのテーマ「お世話になっている地域の方のために自分たちができること」について自分の考えをもつ。

・テーマについての自分の考えをワークシートにまとめさせる。

・話の内容が明確になっているかを確認させ、具体的な内容やそう考えた理由などを付箋紙に記入させ、補足させる。

○各自の考えをグループで交流する。

・友達の意見と自分の意見の共通点や相違点ができるようにベン図などに整理させる。

・質問によって相手の考えを詳しく知ることができるように、「詳しく説明を聞くととき」や「内容を確認するとき」に必要な質問の仕方を示す。

○条件に従ってグループの考えをまとめる。

・「活動時間」や「自分たちの力で実現可能であること」などの条件を示し、グループの考えをまとめさせる。

○グループで話し合った内容や互いの発言の仕方などについて、振り返るとともに感想を伝え合う。

・「質問を通して互いの考えを詳しく聞くことができたか」「共通点や相違点を整理したりすることができたか」など、振り返りの観点を示し学習を振り返らせる。